

『Mind Charging』

第 42 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 5 月 27 日

ヘレン・ケラーの名言



We could never learn to be brave and patient, if there were only joy in the world.

もしもこの世が喜びばかりなら、人は決して勇気と忍耐を学ばないでしょう。

写真の左側の女性がヘレン・ケラーです。1歳半の時に高熱(現在では猩紅熱と考えられている)に伴う髄膜炎に罹患する。医師と家族の懸命な治療により一命は取り留めたものの、聴力と視力を失い、話すことさえできなくなったヘレン・ケラー。よく『三重苦』と表現されますが、自分が彼女と同じ状態でも今と同じように笑えただろうか、『強く生きよう』と覚悟できたであろうかと、彼女以外にも様々な生涯を抱えながら生活をされている方々に対する尊敬と、自分の弱さを感じます。

実は、私の母は『身体障害者手帳 一級』の持病があり、私が生まれて間もなくその病気になってしまいました。今は病状のピーク時に比べると、症状としては随分緩和されたようですが、当時は全身に強烈な痛みがあり、私から見ても、歩くことさえ困難な時もありました。そんな状況でも、できることは少なかったですが、必死に家事や私と姉の世話をしてくれました。そんな母を助けるべく、私の家族は団結力が高かったように思います。母も今回の言葉と同じように『この病気になったから我慢強くなった』、『これ以外の形で、今よりも家族の絆を深めることなんて私の力ではできなかった』と言います。勇気と忍耐によって得た喜びによって、自分を苦しめた大きな障害に対しても感謝できるようになるのだと、今回の言葉を通じて、今は離れて暮らす母の気持ちが改めてわかった気がします。

大変なことに正面から向き合おうとするのは、とても勇気が要ることですが、やり切ることで、その先にある喜びと自分自身を大きく成長させてくれるはずです。また、労せずして手に入った喜びも、『あ、ラッキー』で終わらせるのではなく、自分の勇気を奮い立たせる原動力に変換しましょう。みなさんがこれから出会う『辛いこと』や『うれしいこと』の全ては、自分を成長させ、人生を豊かにしてくれる学びの材料だと思います。(編集委員：入試広報室 鈴木)

ヘレン・アダムス・ケラー(Helen Adams Keller, 1880年6月27日 - 1968年6月1日)は、アメリカ合衆国の教育家、社会福祉活動家、作家である。視覚と聴覚の重複障害者(盲ろう者)でありながらも世界各地を歴訪し、障害者の教育・福祉の発展に尽くした。(Wikipedia 参照)